

北池のカイツブリ

(兵庫県加古郡播磨町)



2018年9月 改訂版

衣 笠 誠 一 郎

目次

1.	はじめに	3
2.	カイツブリ	3
3.	カイツブリの数と縄張り	4
4.	巣作り	6
5.	ヒナの成長.....	7
6.	まとめ	9
7.	おわりに	10
8.	参考資料	10
9.	写真集	11

図 1	カイツブリの数と水位変化.....	4
図 2	2018年4月～8月カイツブリの数と出来事.....	5

写真 1	カイツブリの成鳥（左夏、右冬）	3
写真 2	カイツブリのヒナ.....	3
写真 3	追いかけてこするカイツブリ	5
写真 4	カイツブリ、オカヨシガモを追い立てる	5
写真 5	カルガモを追い立てるカイツブリ	6
写真 6	巣らしきところに立つカイツブリ	6
写真 7	ヒナ3羽を背に乗せたカイツブリの親鳥.....	6
写真 8	細い棒のようなヒナの腕（7月31日撮影）	7
写真 9	翼の骨格ができた（8月4日撮影）	7
写真 10	翼の骨格がうぶ毛で覆われはじめた（8月9日撮影）	7
写真 11	翼はほぼできた（8月13日撮影）	8
写真 12	ヒナが自力でエサを捕まえた（8月14日撮影）	8
写真 13	ヒナがカルガモを追い回す（8月14日撮影）	8
写真 14	北池を周回飛行するカイツブリのペア.....	9

表紙写真： カイツブリ一家（親2羽とヒナ4羽）撮影：2018年7月27日

1. はじめに

2016年8月に始めた北池の野鳥観察は2年になります。この2年間に見られた野鳥（水辺の鳥）は30種類におよびますが、北池で営巣するのはカイツブリだけです。野鳥観察を始めたときは分かりませんでしたが、2016年8月に撮影した写真にカイツブリのヒナが写っており、2017年6月、2018年7月と3シーズン連続してヒナを見ることができました。以下、北池のカイツブリについての観察記録をまとめます。

2. カイツブリ

カイツブリはカイツブリ目カイツブリ科の全長26cmほどのムクドリ大で、留鳥として本州中部以南に分布しています。雌雄同色で、夏羽は頭部から首にかけて赤褐色、上部は黒っぽい、冬羽は頭部から首にかけて黄褐色（写真1）、尖ったクチバシが特徴です。ヒナの首には白い筋模様があります（写真2）。



写真1 カイツブリの成鳥（左夏、右冬）



写真2 カイツブリのヒナ

3. カイツブリの数と縄張り

2017年8月～2018年7月の北池でのカイツブリの数と水位変化を図1に示します。

2017年8月3日にヒナ3羽が現れ、親鳥のペアとあわせ5羽に増えました。カイツブリの数は、10月にはいるとだんだんと少なくなり、10月20日～12月17日までの約2ヶ月間カイツブリは見られませんでした。

この時期、北池の水位はかなり低下し、水面の面積が4分の1ほどに縮小します。池のほぼ全域を歩いてエサを捕れるようになるので、サギ類やカワウなどが多く飛来します。カイツブリにとって居心地が悪いのかもしれませんが、近くに水位が高いままのため池があるので、そちらへ避難したと思われる。

11月20日水位は5cmまで低下した後徐々に上昇し、75cmまで回復した12月18日、カイツブリ1羽が戻ってきました。水位はその後も上昇を続け、2018年1月19日に満水位160cmに達しました。

カイツブリの数は、3月末～4月初めにかけて8羽にまで増加した後減少に転じ、4月29日に2羽になり、5月18日と19日の2日間だけ3羽になり、20日以降は2羽(雌雄のペア)になりました。

7月17日に4羽のヒナが現れ、親鳥とあわせ6羽になりました。

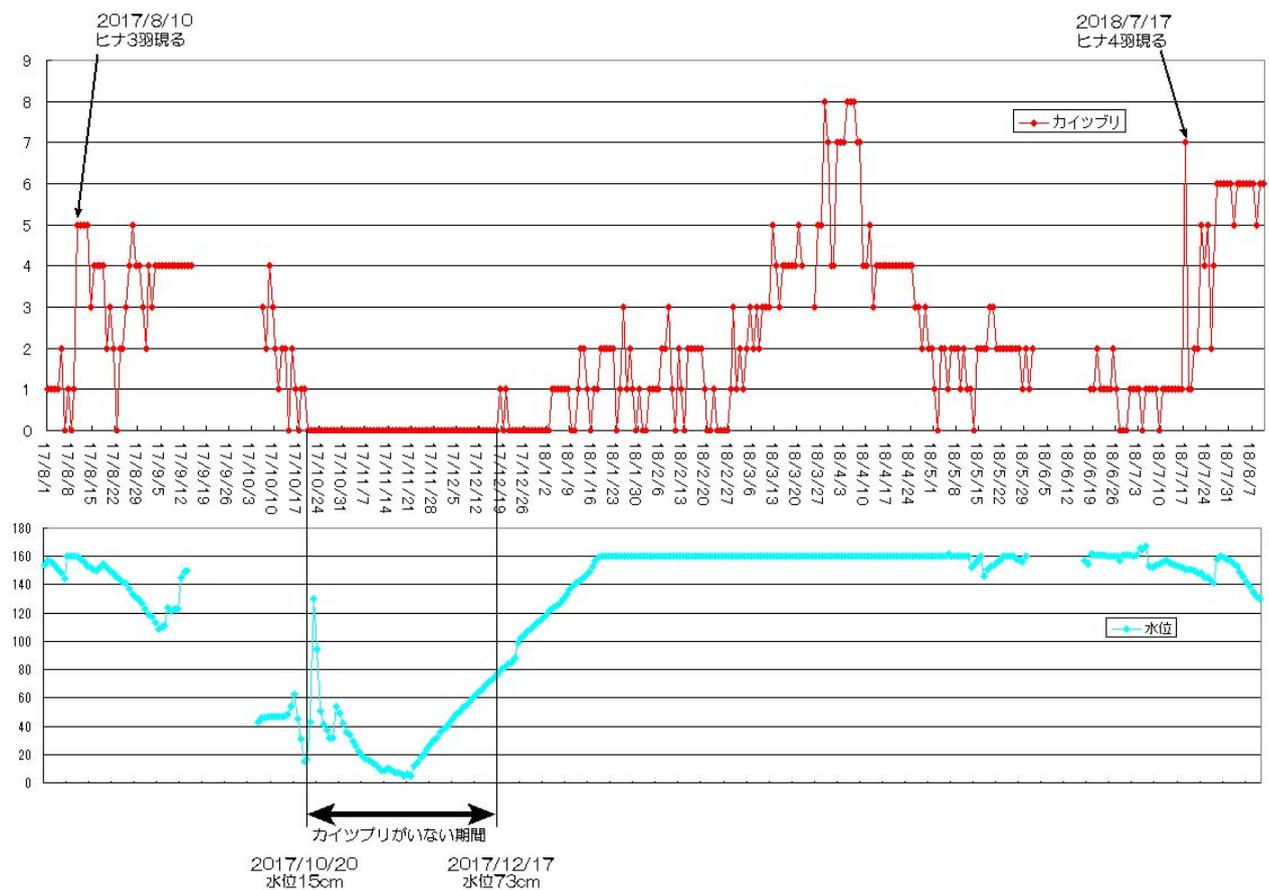


図1 カイツブリの数と水位変化

4月初めに年間の最多となる8羽にまで増えた頃、カイツブリの追いかけっこが、4月1日(写真3)、4日、22日に見られました。



写真 3 追いかっこするカイツブリ

4月29日カイツブリは2羽になり、この2羽が営巣し7月17日に4羽のヒナが現れたことより、4月に見られた追いかっこは縄張り争いであり、4月29日の時点で、この2羽が縄張りを確保したと考えられます(図2の①)。

5月18日(図2の②)カイツブリは3羽に増え、その内の2羽が激しく争い、残りの1羽が見守っているように見えました。2羽のペアが確保した縄張りに、雄1羽が闖入したのかもしれませんが。19日も3羽見られましたが、20日以降は2羽に落ち着きました。

北池のヨシ林は年々縮小しているようで、カイツブリの営巣は一組が限度なのかもしれません。

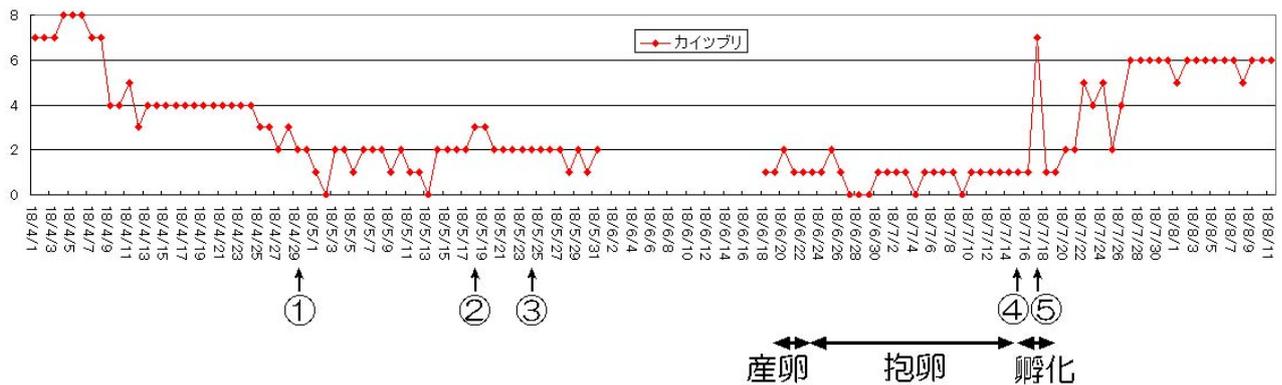


図 2 2018年4月～8月カイツブリの数と出来事

カイツブリ同士で縄張り争いをするだけでなく、自分よりはるかに大きなカモ類に対しても威圧し追い立てることが見られました。

4月13日 カイツブリがオカヨシガモを威圧し、追い立てました(写真4)。



写真 4 カイツブリ、オカヨシガモを追い立てる

7月16日 カイツブリがカルガモを威嚇し、追い立てるのが見られました（写真5）。



写真5 カルガモを追い立てるカイツブリ

4. 巣作り

5月19日 ヨシ林のなかからピヨピヨとヒナの鳴き声が聞こえたような気がしました。

20日 巣らしきものが見え、カイツブリがその上に立っているのが見えました（写真6）。何かぼーぜんとしているようでした。この後、ヒナは現れませんでした。



写真6 巣らしきところに立つカイツブリ

5月24日（図2の③） カイツブリはヨシ林から15mほど離れたところで潜水し、水面に現れることなく水中のままヨシ林に入り、ヨシ林から離れる場合も潜水して15mほどのところで水面に上がってくるのが見られました。ヨシ林の奥に巣を作り直したのか、その存在を知られないように用心しているように見えます。

7月15日（図2の④） カイツブリがエサをヨシ林へ運んでゆくのが見られました。卵が孵化し、ヒナが誕生したもようです。抱卵期間を20日ほどとすると、産卵は6月20日頃となります。

7月17日 親鳥の背に乗ってヒナ現れました（図2の⑤、写真7）。ヒナが親鳥の背に乗るのが見られたのは、この日だけでした。



写真7 ヒナ3羽を背に乗せたカイツブリの親鳥

5. ヒナの成長

東京ズーネットのページによると、カイツブリのヒナは孵化したらすぐに水の中を泳げるようです。自力でエサをとれるようになるまでは、親がエサを与えます。孵化から 2 ヶ月ほどで自立できるようになり、親の縄張りから出されるようです。

以下、ヒナの成長に関して、観察記録をまとめます。親が巣にエサを運び始めた 7 月 15 日を孵化の日として、その後の日数を示します。

7 月 18 日 カイツブリ親がヨシ林の中へエサを運んでいる。

7 月 19 日 カイツブリ親がエサを運んでいる。

7 月 20 日 カイツブリ親 2 羽がエサを運んでいる。

7 月 22 日 カイツブリの親 2 羽が巣から離れ、ヒナが巣からでてくるのを促しているように見える。

7 月 27 日 ヒナだけで水面に出る。親からエサをもらう。

7 月 30 日 親はヒナにエサを与えているが、ヒナを追い立てることもあり。自立を促しているのか。

7 月 31 日 ヒナの翼はまだできておらず、細い棒のように見える（孵化後 16 日目、写真 8）。



写真 8 細い棒のようなヒナの腕（7 月 31 日撮影）

8 月 2 日 ヒナにエサを与えている。

8 月 4 日 ヒナの翼の骨格ができてきた（孵化後 20 日目、写真 9）。

8 月 5 日 ヒナにエサを与えている

8 月 6 日 親がヒナを追い立てている、自立を促しているのか。

8 月 7 日 エサを与えているが、ヒナを追い立ててもする。

8 月 8 日 ヒナ 3 羽だけでポンプ庫まで遠出した。



写真 9 翼の骨格ができた（8 月 4 日撮影）

8 月 9 日 エサを与えるも、追い立てることも見られた。翼の骨格はまだむき出しだが、うぶ毛で覆われ始めた（孵化後 25 日目、写真 10）。



写真 10 翼の骨格がうぶ毛で覆われはじめた（8 月 9 日撮影）

8月10日 エサを与えている。

8月11日 エサを与えている。

8月12日 エサを与えているが、追い立てることもある。

8月13日 エサを与えているが、追い立てることもある。ヒナの翼はほぼできた（孵化後29日目、写真11）。



写真 11 翼はほぼできた（8月13日撮影）

8月14日 4羽と2羽に分かれて、エサ捕りの練習をしているように見える。ヒナが自力でテナガエビを捕まえたのを確認した（写真12）。



写真 12 ヒナが自力でエサを捕まえた（8月14日撮影）

カイツブリ4羽がいる近くにカルガモ1羽が飛来しましたが、カイツブリのヒナ1羽がカルガモを追い回し（写真13）、ついに追い出しました。カイツブリのヒナは親とほぼ同じ大きさになり、カルガモを追い払えるまでに成長していることが分かります。



写真 13 ヒナがカルガモを追い回す（8月14日撮影）

9月2日 ヒナは3羽になり、1羽が北池を飛び去ったよう。

9月5日 ヒナは1羽だけになり、2羽の親鳥が見守っているようすが見られた。

9月6日 ヒナがいなくなり、親鳥2羽だけに。4羽のヒナすべてが、親のなわばりである北池から離れたようです。

6. まとめ

カイツブリの巣はヨシ林の中にあり、外から見えないので、巣作り、産卵、抱卵、孵化などについてほとんど分かりませんが、以下のように推定されます（図 2）。

巣作り：5月20日以降6月20日までの間

産卵時期：6月20日頃

抱卵期間：6月20日頃～7月15日頃

孵化時期：7月15日～17日

5月20日、カイツブリの親が巣のようなところに、ぼーぜんと立っているのが見られました。前日にはピヨピヨとヒナの泣き声が聞こえたように思えたこともあり、ヒナが誕生していたのかもしれませんが。カイツブリがぼーぜんと立っていた巣のようなところは、外から見やすい場所であったので、外敵に襲われて卵やヒナが失われたのではないかと。

5月22日には、カイツブリのペアが北池を3週ほど周回飛行するのが見られました（写真14）。水面すれすれを飛ぶようにしているのはよく見ますが、空中を飛んでいるのを見るのはこの時が初めてでした。もしかするとこの飛行は、もう一度巣作りをするのに、元気をだしていこうということだったのかもしれませんが。



写真 14 北池を周回飛行するカイツブリのペア

7月17日に巣からでてきたヒナの成長を見ることができました。

- 1) ヒナは孵化後約1ヶ月で親鳥とほぼ同じ大きさにまで成長する。
- 2) 翼は孵化後2週間ほどで細い棒のような状態から、さらに2週間ほどでほぼ完成する。
- 3) ヒナは孵化後親からエサを与えられるが、1ヶ月ほど経つと自力でエサをとれるようになる。
- 4) カイツブリには縄張りがあり、孵化後1ヶ月ほどすればヒナでさえ、自分より大きなカルガモを追い出すことができる。

9月1日から5日にかけて、1～2羽ずつのヒナが、親のなわばりである北池から飛び去りました。親鳥は9月6日現在残っていますが、10月から11月にかけて北池の水位が下がると見られなくなります。12月に水位が回復して、またカイツブリが戻ってくるのを待つこととなります。

7. おわりに

北池では 30 種ほどの野鳥（水辺の鳥）が見られますが、営巣して子育てをするのはカイツブリだけのようです。2016 年 8 月に北池の野鳥観察を始めて以来、3 シーズン連続してヒナを見ることができました。ヨシ林は年々縮小しているようであり、来年以降もカイツブリの営巣が続くよう願うものです。

ヨシ林の縮小をくい止め、ヨシ林が安定して存続できるような対策があればと思います。また、現在の北池にヒシや睡蓮、蓮などの水草はありませんが、アカミミガメを駆除することで水草が復活する可能性があり、できるだけ早い対策が望まれます。

8. 参考資料

東播地域のため池とその周辺の野鳥観察手帳、平成 29 年 3 月発行

決定版日本の野鳥 650, 株式会社平凡社, 2014

野鳥観察ハンディ図鑑新水辺の鳥改訂版, 公益財団法人日本野鳥の会, 2013

東京ゾーネット：井の頭公園文化園：カイツブリの抱卵と巣作り

http://www.tokyo-zoo.net/topic/topics_detail?kind=news&inst=ino&link_num=13810

同サイト：カイツブリの巣作りと産卵

http://www.tokyo-zoo.net/topic/topics_detail?kind=news&link_num=11292

同サイト：カイツブリのひなが親鳥の背中から顔を出した

http://www.tokyo-zoo.net/topic/topics_detail?kind=news&link_num=11790

9. 写真集



写真3 追いかけてっこするカイツブリ 撮影：2018年4月1日



写真4 カイツブリ、オカヨシガモを追い立てる 撮影：2018年4月13日



写真5 カルガモを追い立てるカイツブリ 撮影：2018年7月16日

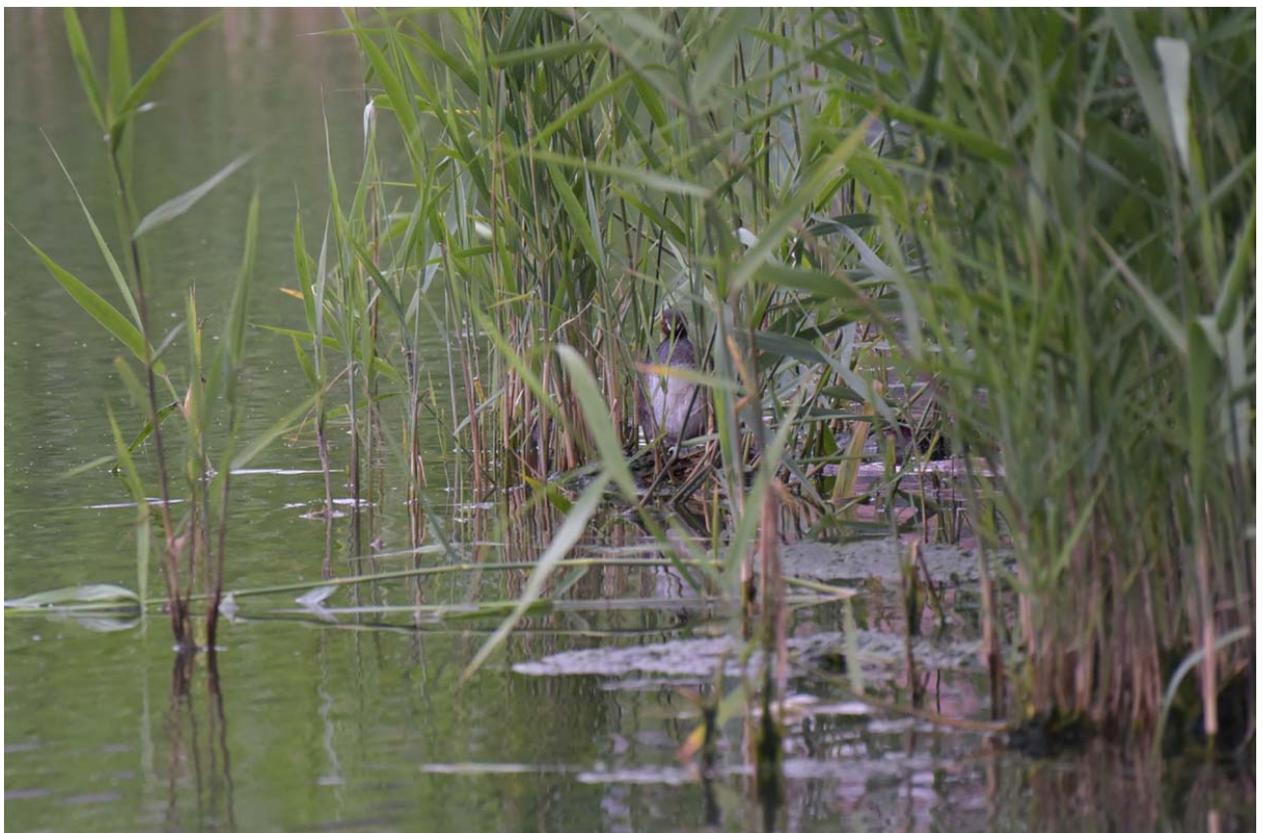


写真6 巣らしきところに立つカイツブリ 撮影：2018年5月20日



写真7 ヒナ3羽を背に乗せたカイツブリの親鳥 撮影：2018年7月17日

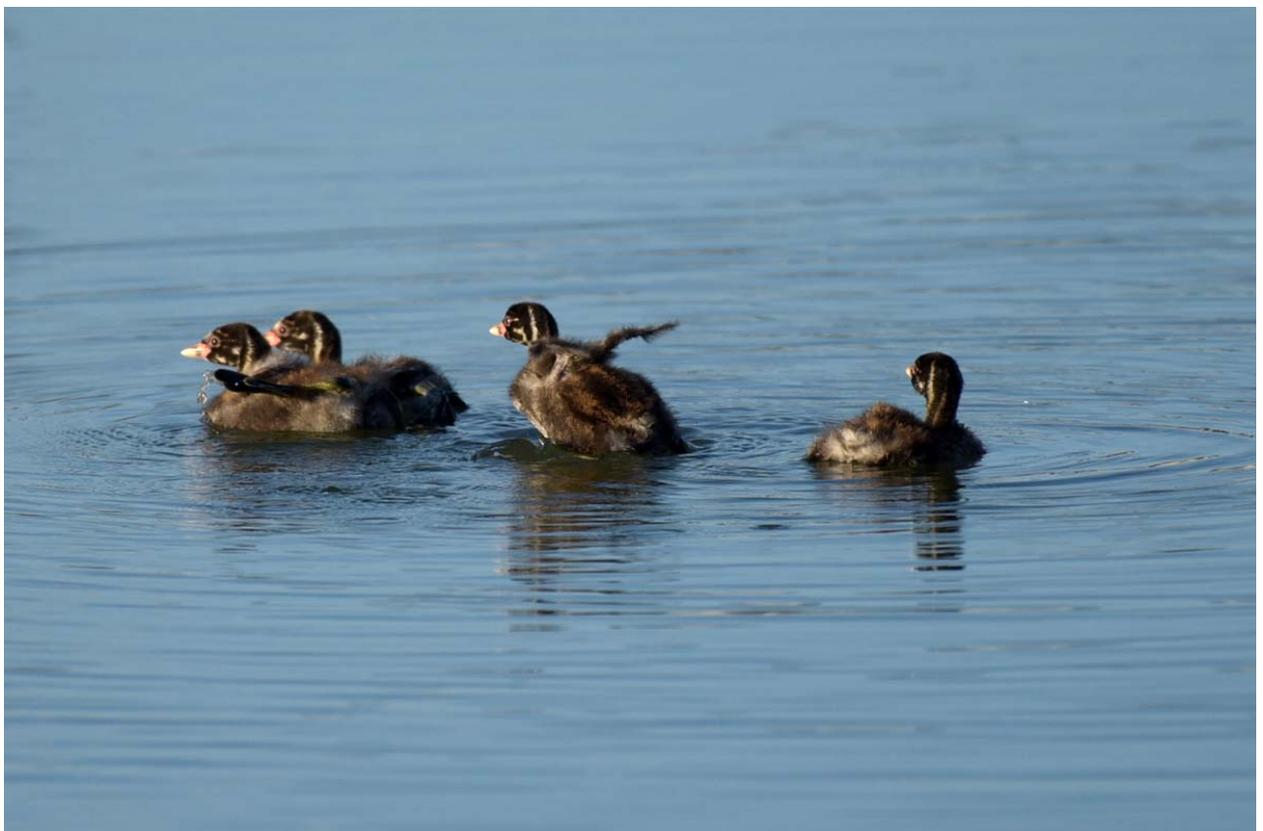


写真8 細い棒のようなヒナの腕 撮影：2018年7月31日

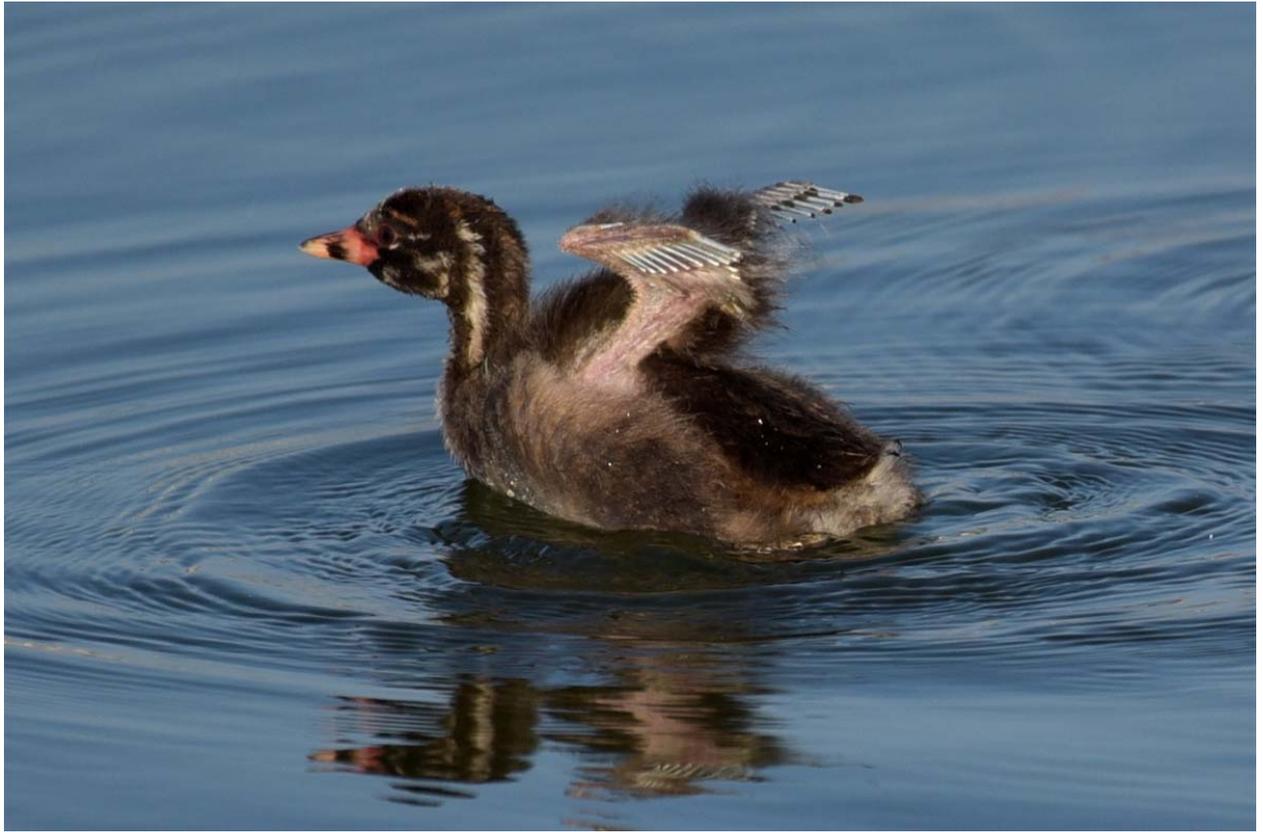


写真9 カイツブリのヒナの、翼の骨格ができた 撮影：2018年8月4日

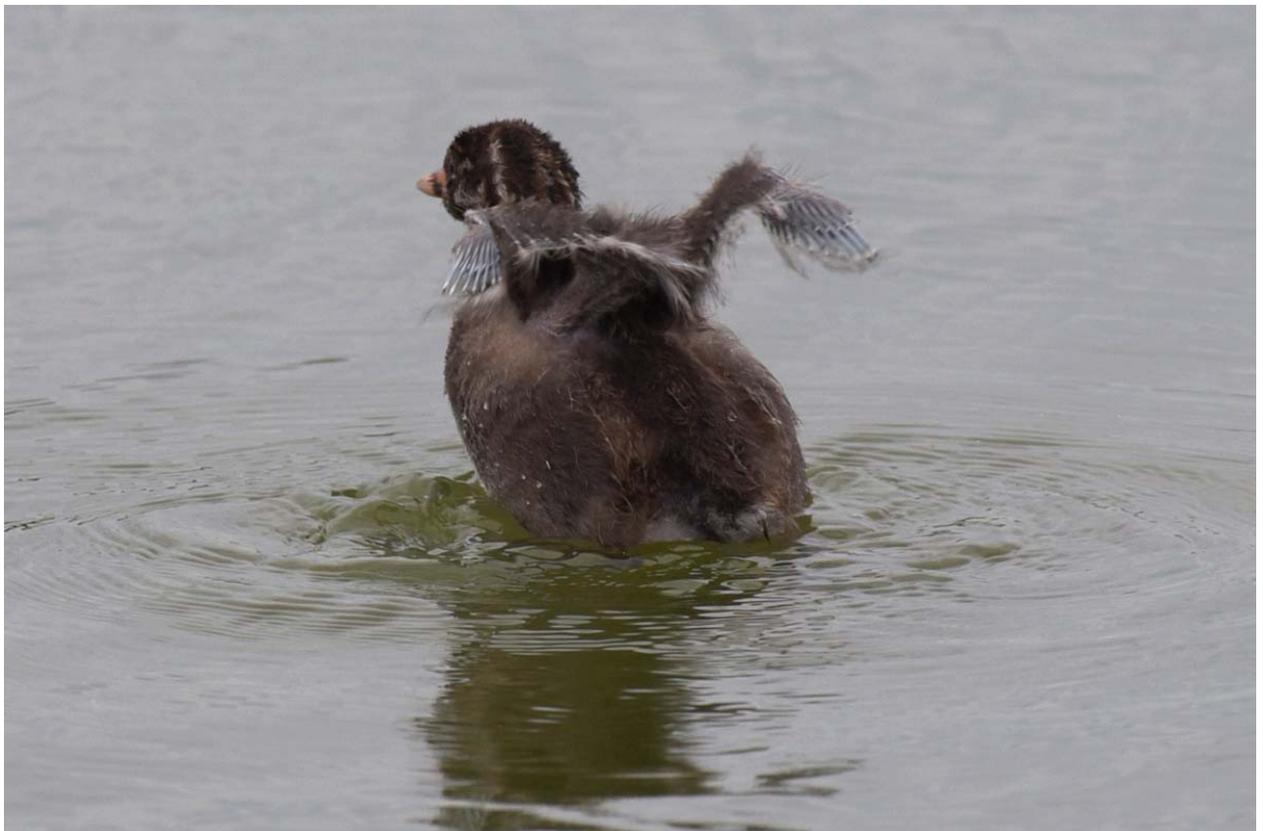


写真10 カイツブリのヒナの、翼の骨格がうぶ毛で覆われはじめた 撮影：2018年8月9日

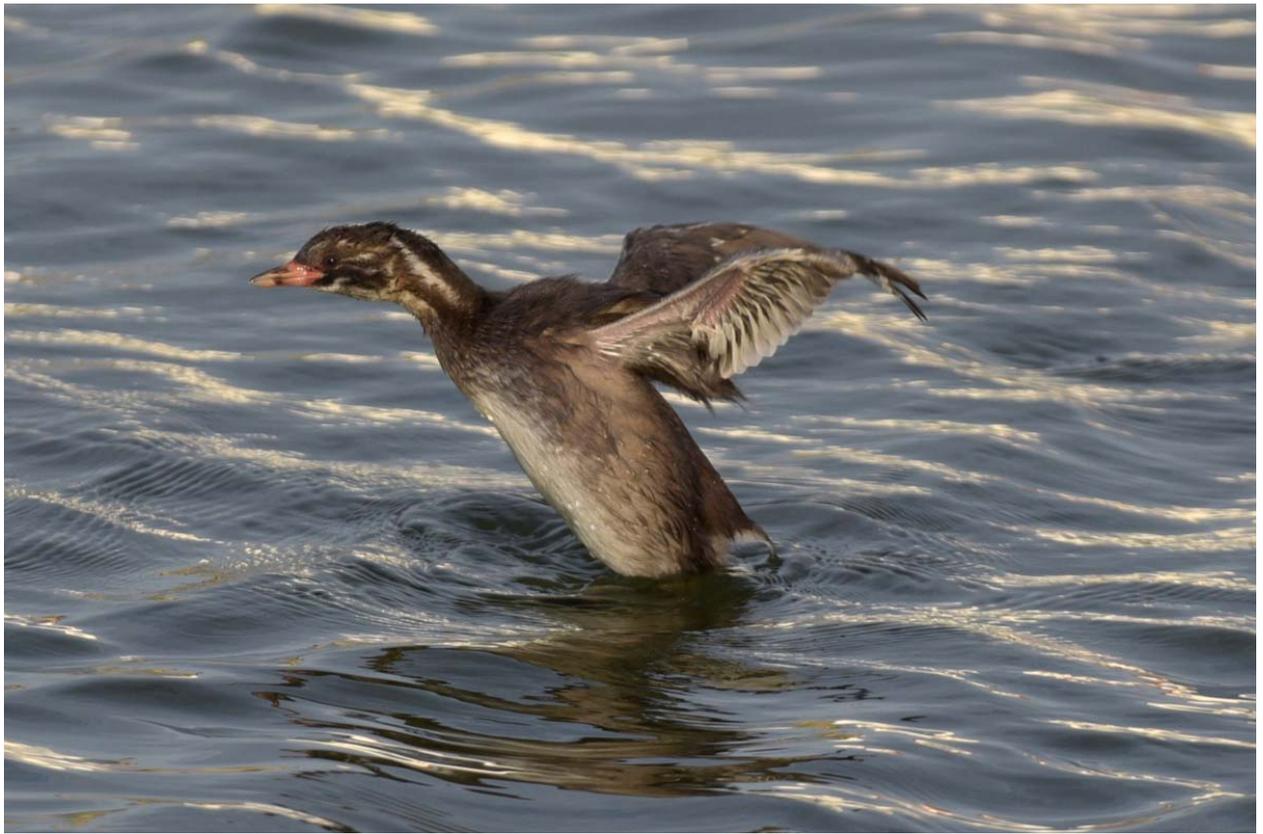


写真 11 カイツブリのヒナの翼はほぼできた 撮影：2018年8月13日

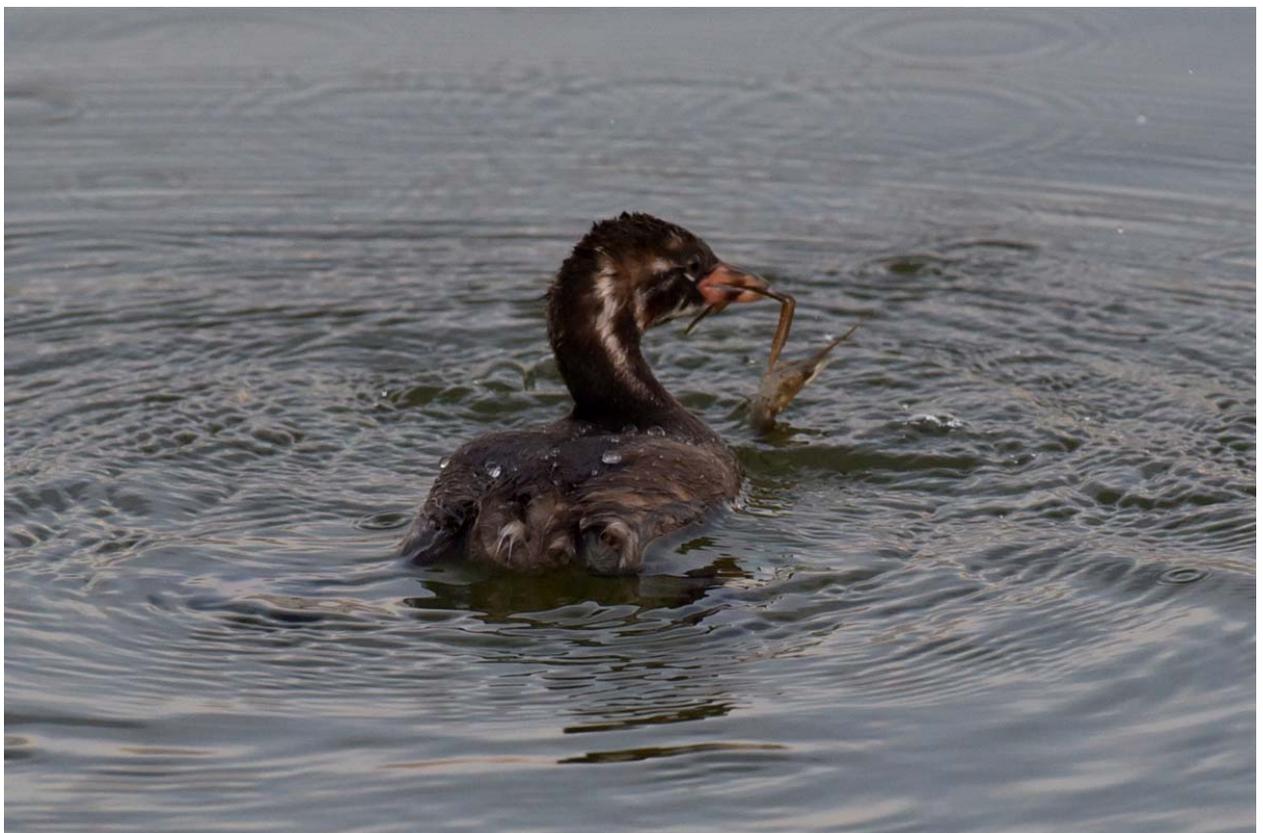


写真 12 カイツブリのヒナが自力でエサを捕まえた 撮影：2018年8月14日



写真 13 カイツブリのヒナがカルガモを追い回す 撮影：2018年8月14日



写真 14 周回飛行をするカイツブリのペア 撮影：2018年5月22日